

日本家庭科教育学会九州地区会

2024.5.15

会報 第34号

九州地区会事務局

熊本大学大学院教育学研究科 家庭科教育講座
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号



人口減少社会の中で家庭科教育を考える

九州地区会 2023 年度会長 八幡(谷口)彩子

久しく熊本県・市の男女共同参画, 次世代育成支援, まち・ひと・しごと地方創生などの行政審議会委員を務めています。初めの頃は, 審議会で発言しても, 会議の雰囲気は雇用や経済優先で, 「男女共同参画なんて言ってもだめだ」などとお叱りを受けていましたが, さすがに最近では, 若い女性の流出が地域の人口減少のみならず, 地方都市の「消滅可能性」にまで言及されるようになると, 「女性が働きやすく, 暮らしやすい環境づくりが喫緊の課題」との発言が男性委員からも聞かれるようになりました。そろそろお役御免か, と思いきや, それでも, 肝心の子育てや福祉, 教育, 地方の生活文化やライフスタイルの創生などを守備範囲とする専門家は少なく, 家政学者として, 少しでも地方都市の暮らしやすいまちづくり, 生活環境の改善・向上に貢献できればと委員を続けています。人口減少社会の諸施策を検討する中で, 家庭科教育について考えることも多いです。

例えば, 家庭科を学ぶ意義をたびたび認識させられる反面, 社会的に家庭科を学ぶ必要性和意義が認識されていないことを痛感する場面が多いこと。実生活・実社会で生きて働く資質・能力である「生きる力」の育成が目指され, さまざまな社会生活場面で, 家庭科の学びが「生きる」ことを実感することも多い反面, 学校教育の中で家庭科を学ぶ意義が必ずしも社会で共通理解されているとは言えないと感じます。家庭・地域・社会と家庭科を含む「学びの地図」を共有するため, 社会実践や情報発信をこれまで以上に重要な戦略として, 家庭科教育に関わる教師も児童生徒も心しておく必要があるでしょう。

その一方で, 私たち生活者ひとりひとりの Well-being を実現させる上で大切な教科である家庭科を担う教員は不足しています。私の大学でも家庭科の教員になる学生は, 家庭科の教員免許取得者の半数以下, 教員養成組織としての力不足を痛感する一方, 学校が(女子)学生を引きつける職場になり得ないことに, 若い女性の流出を危惧する地方都市の縮図を垣間見るようです。何とか手を打たなければ, 家庭科を担う教員の質と量が確保できないことは明白です。

家庭科教育を支えるために, 日本家庭科教育学会九州地区会会員の皆さまのお力をお貸しください。私たちはそのための専門家集団であるということを確認し, 巻頭言とさせていただきます。



